

教育目標	水産・海洋に関する基礎的な知識・技術を習得させるとともに、持続可能な視点を持って水産や海洋の将来の利活用を捉え、関連する産業の発展と地域社会に貢献できる、心豊かなたくましい人間を育成する。
------	--

重点目標	(1)主体的な学習態度の育成と基礎学力を向上 (2)挨拶、時間、身だしなみ（あじみ運動）等マナーの向上 (3)進路目標を高く持ち、主体的に進路選択できる力の育成 (4)海を活かす・守る・興す人材育成に向けた学習活動の研究 (5)地域と連携し学科の特色を活かした水産・海洋教育の充実
------	--

達成度	A	達成
	B	概ね達成
	C	やや不十分
	D	不十分

自己評価						学校関係者評価	総括
番号	重点目標	具体的方策と指標・基準等	目標の達成状況、達成に向けた取組み状況と分析	達成度	成果と課題 次年度に向けた改善策	意見・要望・評価等	
1)	主体的な学習態度の育成と、基礎学力を向上	・多様な生徒への対応と「わかる授業」を目指した授業改善の推進 ・生徒の実態に即した観点別学習状況の評価方法の確立 ・一人一台端末を活用し、生徒の学びの理解促進につながる工夫を行う。 ・探究的な学習について研修し、課題研究や地域学習・発表会のレベルをより高いものにする。	・7月に「生徒の授業評価」を実施し、各教科で必要に応じた指導改善を行った。 ・指導と評価の一体化について、研究授業、研究協議会を開催し理解を深めた。 ・12月に教員対象のICT活用研修会を実施し、効果的利用について学んだ。 ・課題研究、地域学習において、共に主体的な活動を展開することができ、外部からも高い評価を得ることができた。	B	・現行学習指導要領について、今年度が完成年度であるとともに、来年度は水産科1学科の完成年度となる。教育課程や学校設定科目等について、課題や改善点がないか検証を行っていかねばならない。 ・ルーブリックを用いた評価等、引き続き、指導と評価の一体化に努める。	・教育診断の結果より、生徒と教師間の関係が良好で、双方で理解の度合いが図られていることは良いと感じる。	ICTの積極的かつ効果的活用により、幅広い学力層に対応していきたい。特に上位者対策についてはGoogle Workspace等の活用を研究し、実践に繋げていきたい。
2)	挨拶、時間、身だしなみ等マナーの向上	・定期的な服装・頭髪検査 ・強化週間等の設定 ・毎日の清掃活動の徹底 ・ユニバーサルデザインの視点の入った整理整頓 ・教職員が共通理解を持って全員で指導にあたる。	・全体的に基本的生活習慣は確立されている。 ・全体として、服装・頭髪など良い方向に変わってきているが、規定から外れる生徒もしばしば見受けられる。 ・特定の生徒について、遅刻が多い。学年を中心とした声かけ等を行った。 ・クラスのよっては、整理整頓、清掃がなされておらず、学習環境の整備という点で不十分であった。	B	・PTAの協力も得ながら、マナーアップ運動（朝の立哨指導）などを行ったが、自発的な挨拶ができるよう、さらに働きかけていかねばならない。 ・ルールを守ることについて、全教職員が共通理解のもと、服装頭髪指導にあたっていくことが必要不可欠である。	・来校時に挨拶をしてくれたり、マナーが大変良いと感じる。 ・夏場の自転車のマナーについて、事故等ないよう、より一層安全運転を心がけてほしい。	朝のマナーアップ運動は、生徒、保護者、教職員間のコミュニケーションの場としても機能している。今後も保護者等の協力を得ながら継続していきたいと考える。
3)	進路目標を高く持ち、主体的に進路選択できる力の育成	・進路のしおり（キャリアパスポート）を活用し、LHR年間計画に活用予定等を組み入れ、キャリア教育に取り組む。 ・水産・海洋関連企業よりの求人依頼を参考に、各類型と連携しながら進路開拓を行う。 ・進路希望調査をふまえて、地元および県外の企業との適合性を考えさせる。	・キャリア・パスポートを効果的に活用するには至らなかった。 ・年次ごとのガイダンスや「山形のスペシャリストに聞くトップセミナー」、WAKUWAKUWORK等多様な機会を活用したキャリア教育を行うことができた。 ・求人票の収集や生徒への公開の際に、クラウドサービスを活用することにより、一覧化や閲覧性、視認性の向上につながった。また、進路情報の発信にデジタルサイネージを導入するなど、ICTの効果的活用により、キャリア教育を推進することができた。	B	・事前学習や事後学習の際に、効果的な振り返りを行うために、キャリア・パスポートを活用して行く。 ・企業訪問や他の効果的な進路開拓方法を確立する必要がある。 ・人手不足で売り手市場の時こそ丁寧な進路対応・進路指導を実施し、学校としての信頼を高める必要がある。 ・上位者対策に特化した講習や個別面談の実施について検討していかねばならない。	・積極的な資格取得により、将来の選択肢を広げ、高い進路目標を意識してほしい。	海技士をはじめ、本校生だからこそ挑戦できる資格の積極的取得を推進していかなければならない。そのことが、生徒の将来の進路により優位にはたらく。
4)	海を活かす・守る・興す人材育成に向けた学習活動の研究	・教科内実習や課題研究を活用し、生徒が主体的に取り組める場を設定し探究型学習につなげる。 ・関連企業や自治体との連携を深め、地域に貢献できる人材を育成する。 ・あらゆる状況下でも効果的な乗船実習ができるよう安全航海、感染予防と実習の両立を図る。	・企業や自治体と連携しながら、新たな販売品の企画や試食会など効果的に実践することができた。また、課題研究における連携を通し、共同研究を実践することができた。 ・課題研究では水産・海洋に関わる多くの取組みを実践し、部活動、同好会活動も含めてポスター発表形式で充実した発表会が実施できた。 ・小学生や中学生対象の学校見学、体験活動を実施し、本校の魅力をPRすることができた。 ・乗船実習では、実習船の老朽化もあり計画変更があったが、感染症予防等に努めながら事故なく乗船実習を展開することができた。	A	・水産・海洋産業の発展に寄与する人材育成を目指し、産業界や自治体との連携、協働による魅力化・特色化に向けた新たな取組み機会の創出や充実を図る。 ・入学者志願増に向けた効果的な情報発信等を行う。 ・航海内容をより効果的に実践できるよう、時宜に合った航海の立案が必要である。	・1週間程度の職場体験を通し、実際の現場を知り、今後の学習活動に役立てていただきたい。 ・課題研究については、年々、ランクアップしていると感じる。発表会の優秀作品は漁協の広報誌を使って生徒の頑張りを広く周知してはいかがか。	3類型それぞれが、様々な企業、団体、自治体と連携しながら、その特色を生かした学習活動が展開できている。
5)	地域と連携し、学科の特性を活かした水産・海洋教育の充実	・地域に根ざした海洋教育を実践するため、授業や課題研究を通じて地域学習や課題解決型の研究に取り組む。 ・産業教育連携協議会委員と協働し、その事業計画を円滑に進めることで、水産・海洋教育の充実をはかる。 ・各学科、系列で学んだ学習内容を深める資格を取得させ、課題研究などで応用力を身につけさせる。	・加茂自治会や地域の歴史研究家と連携し、1年生がまち歩きを通し、地域に関する理解を深めることができた。 ・産業教育連携協議会の事業目的に沿って共同研究の実施や本校の魅力発信等の諸活動を実施することができた。 ・各系列による専門性を生かしながら、関連企業・団体等の協力のもと、施設見学や実習を行うことができた。 ・海技士、小型船舶ほか、各種資格取得に向けてガイダンスや学習会を実施することができた。 ・年2回の山形県海洋教育研究会を開催し、小中高連携を深めるとともに、現在の海洋環境をとりまく問題について知見を広げることができた。	A	・持続可能な地域社会の実現を目指し、そのニーズを踏まえた教育課程の開発を検討していかねばならない。 ・海技士の筆記試験に係る指導体制を強化することができたが、今後も受験者の増加と合格率の向上に向け取り組む必要がある。	・漁業協同組合や漁師の話等を聞く機会を設け、より実践的な学びにつなげてほしい。 ・今後、洋上風力発電事業に携わる人材育成に努めていただきたい。 ・遊佐町沖洋上風力発電事業のコンソーシアムに関連する企業との連携を模索してはどうか。	産業教育連携協議会委員や関連団体との協働により、校内の研究活動や現場実習、体験活動等を充実させることができた。
自己評価及び学校関係者評価の改善点、他		学校関係者評価委員が評価や意見等が出しやすくなるように、日ごろの教育活動の周知について、メール連絡等の情報発信を積極的に行った。					